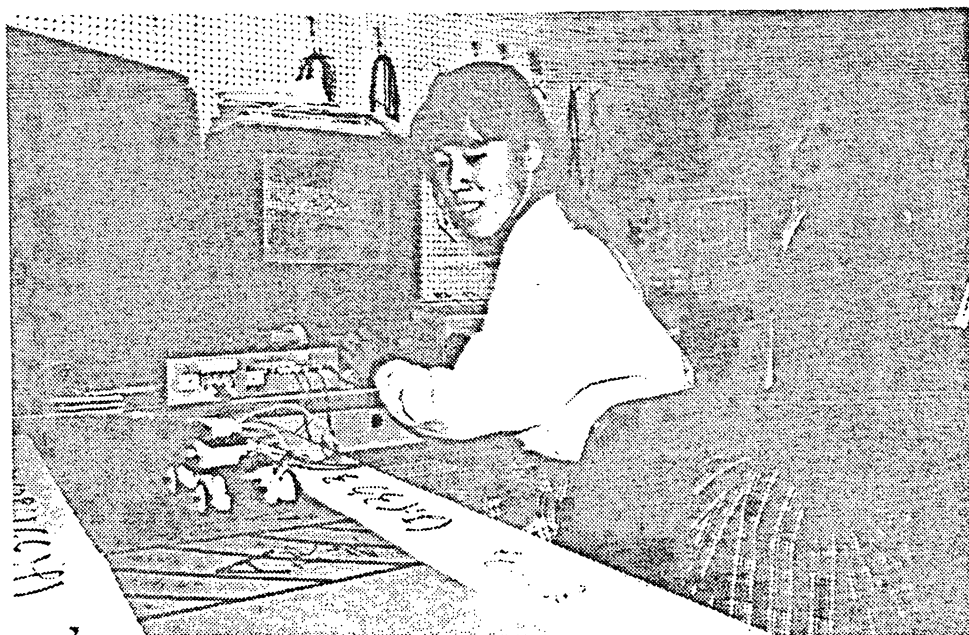


富山大学 教育学部  
 附属教育実践研究指導センターニュース  
 第9号

CENTER NEWS  
 CENTER FOR RESEARCH AND TRAINING IN TEACHER EDUCATION  
 FACULTY OF EDUCATION , TOYAMA UNIVERSITY



LEGO-LOGOを活用した卒業研究

目 次

	ページ
教育実習の内外環境・・・・・・・・・・佐々木 光三	(2)
離着任のことば・・・吉田 雅巳、石坂 千賀子、菊池 さとみ	(2)
第35回国立大学教育工学センター協議会並びに研究会報告	(3)
教育実習運営委員会報告	(4)
日本教育大学協会 北陸地区会 教育実践研究指導研究協議会報告	(5)
あゆみ	(5)
附属養護学校教育実践公開研究会のお知らせ	(6)
おしらせ	(6)

1990年1月

富山大学教育学部附属教育実践研究指導センター

## 教育実習の内外環境

センター長 佐々木 光三

本年度の教育実習も一応無事に終了し、引き続いて来年度の計画に着手しています。

本年度の実習に当たって、学部の教官多数のご指導が得られました。実習校からも感謝されているところであり、心強く思っています。

教育実習運営協議会などで今日の教員需給の厳しい状況、教職以外に進路を求める学生の増加が話題になります。主免取得に関わる学生については、実習態度に関して問題はなく、精一杯努力しているようです。しかし副免許取得希望による実習は、気の緩み、言動が批判の対象になるものがあり、要は指導の問題であるにしても、実習システム自体の再検討を考える時期かとも思われます。

また現在小・中・高等学校を通じて、教員の年齢構成に偏りが見られ、中堅層が極めて薄くなっています。指導を担当する教諭が、経験4、5年という段階で協力校では十分に指導の責任が果たせないのではと苦慮される場合もあり、学部としても従来とは異なった対応が必要でしょう。この事態はしばらく続きそうで、中学校にも初任者研修制度が実施され、協力校にはさらに負担感が増すという問題も加わります。情報教育課程の専門移行にともない、教職科目の受講や単位数と並んで、教育実習の問題も、検討することが望ましいと思われれます。

新免許法の施行、課程認定の再申請と同時に、実習の事前事後の指導カリキュラム内容・方法を申告したのですが、事後の指導は、各大学とも検討が及んでいないように見えます。実習を2年にわたって実施する趣旨からも、事後指導の意義は大きいはずですが、本学部は小規模で、難しい条件もあります。合宿を実施、検討中の大学もあるようですが、本学部では試行のあと中止に落ち着いた経過があり、実習各校に負担を掛けず、教育の効果が期待できるような方法・形態を準備しなければなりません。

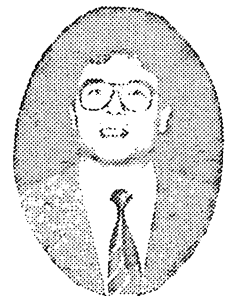
以上教育実習に関わる状況について、問題をいくつか挙げてみました。センターのみでは手に余る問題もありますが、学部が実施する教育実習の充実と改善を図りたいと思います。

---

### 着任のことば

講師 吉田 雅巳

11月1日にセンターの専任教官として着任しました吉田です。これまで東京都の定時制工業高校で理科の指導をしながら、学業不振、授業設計、授業分析の研究を続けて来ました。コンピュータ、AV等、機器については一応ひと通り扱えますが、もともとは理学・教育畑の出身でこれら機器を道具として活用していただけで前任者の山西先生のような専門的な能力についてはまだまだです。現在はセンターをはじめとする学内の機器の取り扱いについて勉強中で、今後はこれら機器をより効果的に皆様に活用していただくための環境作りに努力する所存です。



10月下旬に本学にご挨拶に参じた際、車にチェーンを積み、スキーのヤッケを持ってきて皆さんに失笑を頂いたのですが、その実、首都圏の人達の北陸地方に対するイメージは今から思えば

アラスカに近いものがあり立山で雪が降ったとニュースが入れば"行くときはチェーンを持って行きなさい。"と皆が口々にそそのかしました。実際富山で生活してみると決してそのようなことはなく、むしろ東京より暖かく感じます。街も文化的で、何よりも道路やバスがすいていて人々のんびりとしているのが好きです。今年の正月もせわしくなく東京に帰るよりはこちらで過ごすことに決めました。

長い間現場教員をしていたからでしょうか、教壇に立たないと寂しい気持ちがします。頑張る学生、だらしのない学生・・・いろいろな学生さん達とのお付き合いは私にとっては重要な活力源でした。来年度の学部の体制の中で私がどのような講座に関わるかは、決定していませんが今は4月を楽しみにしています。

### 離任のことば

事務補佐員 石坂 千賀子

4年間、センターのスタッフとして働かせて頂きました。事務も初めて、コンピュータも初めての私にとって、正直な所、とても不安でした。しかし、センターの先生方の暖かい目と思いやりのある環境の中で、自分なりのペースで伸び伸びと仕事ができるようになり、今では(大変な自惚れですが)なくてはならない存在として、先生方や学生が頼りにしてくれるようになってきました。

自分自身の都合で退職することになり誠に残念ですが、仕事場としては、地位・給与・時間的にも決して良いとは言えない待遇の中で、何よりも大切な人間的なつながりのあるすばらしい職場だったと思います。このようなすばらしい環境の中で働けたことを深く感謝します。本当にありがとうございました。

そして、センターの益々の御繁栄を心よりお祈り申し上げます。



### 着任のことば

事務補佐員 菊池さとみ

この度1月1日付けで高岡短期大学から来ました菊池さとみです。1960年秋田県で生まれ、9才の時にこちらに引っ越して参りました。

前の仕事が図書館事務でしたので今の事務とは勝手が違い、多少とまどっていますが、一つずつこなしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



## 第35回国立大学教育工学センター協議会並びに研究会報告 (1989年10月12日 於岡山大学)

### 開会行事 議事

1. センター間の共同プロジェクト
  - イ) 教育技術研究会、教育メディア開発研究会
  - ロ) 情報教育研究会
  - ハ) 新しい教育職員免許法に基づく施設設備の充実計画について
  - ニ) 新規研究プロジェクトの発足について  
「教育実習（事前事後の指導を含む）」の教材・資料の交換流通システムの開発  
(平成2年度から平成5年度予定)
2. 教育工学雑誌刊行状況について
3. 国際的な研究交流・協力について
  - イ) ユネスコAPEID計画関連
  - ロ) 国際協力事業団による教育協力及び研究交流
4. 各センターの状況等
5. 第36回、37回センター協議会
6. 科研費の申請について

### 課題研究会

教育実習の事前指導・事後指導の実践プラン

教職専門科目「教育の方法及び技術」への取り組み

等について研究協議がなされました。

本学よりの出席者・・・佐々木 光三

### 教育実習運営協議会報告

平成元年度教育実習運営委員会が11月17日開催され、県、市教育委員会と附属校・実習校・協力校全校から出席があり、全体会、分科会で本年度実習についての反省点や問題点などを中心に協議されました。主な話題は次のとおりです。

#### 幼稚園分科会

- ・学部・学生との事前連絡をさらに密にして欲しい
- ・実習記録の記述については、園の方針に沿った指導を願いたい
- ・研究課題と結びついた実習であって欲しい
- ・（学生全般に）より積極的・自発的であって欲しい
- ・評価については学部でも今後さらに検討を進めたい

#### 小学校・養護学校分科会

- ・4年次と3年次の実習時期が近すぎるので（学校側に）負担がある
- ・中学校から小学校へ（副免実習時）の戸惑いへの対策
- ・評価についての（附属校・協力校の）情報交換の必要
- ・学生の気質の変化と評価方法（評価法改善に関連）
- ・学校教育に関わる、基本的諸事項の指導が（現場から）期待されている実状

#### 中学校分科会

- ・各学校では受け入れ学生に丹念な指導評価が行なわれている
- ・学生は総体的には真面目で熱心である
- ・中学生の指導への戸惑いが見られた
- ・小・中学校間の連絡が十分でない実態を改善してほしい
- ・実習録の形式を改善して欲しい
- ・熱意に欠けるものや実習生同士の結びつきの希薄なものも見られた
- ・採用試験結果の影響が大であり、実習時期を検討して欲しい
- ・ついでという感じで実習にくる学生もいるのではないか
- ・学問に対する厳しい態度を養って欲しい 等

最後に学部長から今後改めるべきは改めていきたいとの挨拶があり散会しました。

## 日本教育大学協会 北陸地区会 教育実践研究指導研究協議会報告 (1989年11月18日 於福井大学)

### 協議議題

- 1.新免許法における教育実習の事前及び事後の指導内容・方法等について

### 承合事項 課題

- 1.大学院へのかかわり方
- 2.新免許法に伴う授業（教育の方法・技術）への関わり方
- 3.新課程設置の動向とセンターとの関連
- 4.パソコン通信の現状について

以上について参加各大学代表よりレポートが提出され、それに基づいて協議がなされました。

本学よりの参加者・・・佐々木 光三、吉田 雅巳

### あゆみ

#### 富山大学教育学部公開講座

1989年8月22日、23日

題目「マイクロコンピュータの教育利用 -障害児教育への可能性を探る-」

講師：山西潤一 教官

約20名参加があり2日間にわたり熱心な研修が行なわれました。

#### 教育実習委員会 1989年10月27日

### 協議議題

- ・平成2年度教育実習履修等について
- ・本学部における教育実習の改善について  
観察参加の発足から今日までの経緯  
現状と問題点（附属校、学部）

事前指導が夏休み直後のため、4限授業に学生の負担感が大きい。  
実習の評価について学部の教官は多く知らされていない。  
学部側の関心も高いといえない面がある。

などの意見がありました。

現状では学部及び附属校園の双方に種々の制約が大きく、挙げられた問題点について具体的な対策を取り上げるまでには至りませんでした。しかし今後「事前及び事後の指導」が単位化される情勢を考慮しながら、実習改善の方法について学部及び附属の意見交換を続けることとして散会しました。

#### 4年次生教育実習座談会 1989年11月10日 於 実践センター長室

参加学生計8名

教育実習を終えた4年次生の有志に、実習をめぐる様々な話題を捉え自由に話してもらいました。当日の話題は多岐に及びましたが、学生諸君の生き方や考え方に対して教育実習が大きなインパクトを与え、またそのことについて真剣に考えようとしている様子が、各々の発言からうかがえました。今後の実習計画や事前事中事後指導のあり方に対しても示唆に富むものがありました。

#### センター運営委員会 1989年11月28日

- ・センター紀要の編集内規について（センター紀要の現状と問題点）
- ・センター利用内規(案)について
- ・情報教育課程の新設と附属教育実践研究指導センターの将来

以上について協議がなされました。

#### センター紀要編集委員会 1989年12月6日

センター紀要編集内規について意見交換を行ないました。上記センター運営委員会、紀要編集委員会の協議を経て従来の内規の内容のうち以下の点に変更されました。

新	旧
§ 4. (2) 編集委員会が認めたもの。但し本学部の教官の責任のもとに投稿する場合に限る。	§ 4. (2) 投稿者:2) 編集委員会が認めた者
§ 10. 原稿提出締切日は4月30日とする。	§ 10. 原稿提出締切日は3月31日とする。
§ 11. 校正・別刷については教育学部紀要投稿規定に準ずる。	追加

#### 附属養護学校教育実践公開研究会

2月16日(金) 8:10より開催される予定です。

研究主題：個人差に応じたことばの指導

#### おしらせ

教育工学会 学習環境・情報処理研究会の開催について

2月3日(土)に、本実践センターを会場にして開催される予定です。

問い合わせ先：山西 潤一教官

## プログラム (発表者:○)

1. プログラムドロジック制御指導システムの開発  
—MSXパソコンを利用して—  
○吉田 雅巳 (富山大学)
2. ハイパーカードを用いた学習環境について  
○山西 潤一・吉田雅巳 (富山大学)
3. 2室対応の背面ビデオプロジェクタを備えた情報工学実験室とその活用計画  
○吉野 達也・小郷 寛 (帝京技術科学大学)
4. 高専における情報系学科のカリキュラム分析  
○新開 純子・大森 克史  
(富山商船高等専門学校)
5. 公開講座「パソコン入門」についてのアンケート調査  
○宮地 功 (岡山理科大学)
6. コンピュータ不安の測定の試み (3)  
○小川 亮 (上越教育大学)
7. 理科教育におけるシステム・エンジニアリングと実践例について その2  
田中 理一郎 (新潟大学)  
○玉木 敏雄 (甲南小学校)
8. 小学校国語の教科書に見られる漢字の出現頻度とその学習についての一検討 (3)  
—漢字の難しさと学習の傾向—  
近藤 勲・○国本 順子 (岡山大学)
9. 「助詞「の」が算数・数学教材の理解に及ぼす影響 (3)」  
—助詞「の」の機能的理解度と算数の学力との相関関係—  
○河崎 雅人 (福山暁の星女子高校)
10. 音楽教育におけるコンピュータの利用について  
—教師の範奏活動を支援するシステムの開発—  
○岸 誠一 (岡山市立馬屋上小学校)

11. 交差数減少アルゴリズムによるグラフの視覚的表示  
○赤堀 侃司 (東京工業大学)
12. 行動観察法における評価の客観性について (2)  
○清水 誠一 (中川小学校)  
岸 誠一 (馬屋上小学校)
13. 学生の職業意識に対する調査研究  
○松原 勇 (金沢経済大学)  
山西 潤一・高塚 清文・佐藤 久三 (富山大学)
14. 医学部一年次の福祉体験実習の効果  
○松原 勇 (金沢経済大学)  
鏡森 定信・成瀬 優知・大谷 英行 (富山医科薬科大学)

## 特別講演

15. 「台湾の教育工学の現状」  
National Taiwan  
Normal University  
教授 王 澄霞 先生

## センター利用内規の制定

今回新たにセンターセンター利用内規が制定され、平成2年1月4日より施行されました。従来からも行なっていた内容を成文化したのですが、今後センターの利用は内規に従って行なわれるよう、皆様のご協力をお願いします。（内規は次号に掲載の予定）

## センターニュースの発行について

本号は、印刷を業者依頼せずにセンターで自主製作してみました。これにより、センターニュースを頻繁に発行することが可能です。内容もより即時なものとしたと考えておりますが、ご意見を頂ければ幸いです。また、次号からは皆様のご意見・ご要望なども掲載したいと考えています。

発行年月日 平成2年1月16日

編集発行 富山大学教育学部

附属教育実践研究指導センター

佐々木 光三

〒930 富山市五福3190

(TEL)0764-41-1271

内線 2540~2542、2149